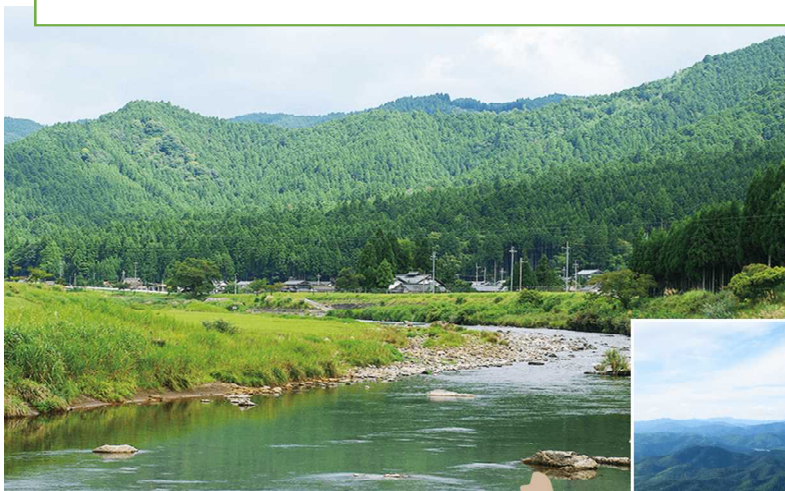


# 京北地域の送迎支援 ボランティアに支えられている 「福祉有償運送」「サロン送迎」「買い物支援」



右京区社会福祉協議会 京北事務所  
所 長 市野 浩子

## 京都市右京区京北地域：

- ・ 京都の中部（右京区の北部）、丹波高原の中にある山間地、日本海と太平洋の分水嶺に位置し、その面積の9割以上が森林である。
- ・ 京北地域は、東西に17.7km、南北に21.7kmの長方形である。
- ・ 6地区に、64集落が点在している。
- ・ 平成17年に、京都市に編入合併し、右京区京北となる。
- ・ 世帯数 1,882世帯 人口4,602人 少子高齢化の進行に伴い、高齢化率は、46%となっている。
- ・ 住民の願いであった「京北トンネル」の開通にて、右京区役所から京北地域までは、約40分の走行である。
- ・ 天候は、夏涼しく、冬は寒く、積雪多い。

## 公共交通の状況

- 京都市内（京都駅）から⇔京北地域  
西日本JRバス運行（約1時間ごとの運行）京都市より、助成金
- 京北地域内
  - ① 公共交通空白地有償運送 ふるさとバスが運行  
高齢乗車証での乗車可能
  - ② スクールバス運行
    - ①②共に京都市が、「きょうと京北ふるさと公社」に運行を委託
- 京北病院患者送迎 行きは地域拠点から乗車、帰りは自宅で下車  
京都市より、送迎の事業費助成あり 利用者無料
- タクシー事業所 令和4年2月に廃業
- 自家用有償運送 ゆめハウス
- 福祉有償運送 右京区社会福祉協議会京北事務所 課題あり

## 京北事務所の実施する外出支援サービス事業の現状

- ・福祉有償運送（ドア＋oドア・車いす対応）  
京北地域内：医療機関・公共機関・買い物・金融機関等  
年会費1,000円と、1,300円（1回ごとに）、付添は年会費のみ

- ・京都市内へ、透析の送迎してほしいという声
- ・お友達の家や、お寺、体操教室等に、送ってほしいの声

## 令和4年10月の様子

登録 160名 74件の送迎 1日8件が最近の最大 車いす使用の方や買い物にての利用が増加（買い物は、毎週定期的の方も2人）  
利用者 80歳代と90歳代 昨年の新規申請者の半分は、免許返納も1つの要因  
運転ボランティア 29名, 講習を京北で開催, 女性ボラの増加 11名

要綱では、1週間前の予約

通院での利用者は、2～3日前には予約あり

買い物の方や、新規申請利用者は、今日とか明日とかの依頼がある  
午前は、医療機関への送迎、午後は買い物やその他の利用

- ・サロン送迎 平成30年から開始  
20のサロンが活動中（参加者 5人～50人）  
それぞれのサロンが、月に1回開催 登録者数 350名  
送迎は無料 11のサロンが、送迎利用  
① 自宅～会場へ ② サロンとしての外出
- ・買い物支援（令和4年10月末）  
6集落で実施（毎月1回実施）利用登録者：36名  
車：40台運行 1回平均 4人から12人 総参加者数 135人  
令和4年9月から、ガソリン代程度を、個人から受け取っている

安心してサロンに参加、登録者の増加や新しいサロンの誕生

買い物も、近所の方と、久しぶりのおしゃべりが楽しい

## 京北事務所の実施する外出支援事業の課題の経過

1) 福祉有償運送 公用車・4台 (車いす搭載車 2台)

- ・旧京北町時代・生活支援事業として委託を受け開始 (平成13年～)  
委託金 年450万円

京都市編入合併後、自主運営「毎年の赤字が課題」  
年間 約350万円”

ズーっとの課題…何とかしな、あかん！

2) 健康すこやか学級 (サロン) 京都市よりの委託事業  
送迎は遠隔地加算にて無料で実施

- ・自宅からサロン会場までの送迎
- ・サロン事業としての外出 (お花見、紅葉狩り、町内の散策等)  
…サロンボランティアによる自家用車での送迎が常態化  
⇒サロンボラから、不安の声

## 何とかしなあかん⇒この思いからスタート

- ・ 高齢者や障がい者の外出の支援を何とか続けられるように。。  
これから、バス停まで歩けない方がもっと増える  
免許返納の方がもっと増える、本当に増えてきた
- ・ 実情を聞いてほしい
- ・ 事務所内では、運転手とコーディネーター業務の見直しも・・・

こんなことを、考えながら仕事をしていたら・・・  
今から思うと・・・、色々なことがつながり・・・

ターニングポイントとして整理すると



## 地域と、ボランティア活動の変化（協働の芽の経過）

### ターニングポイント① 平成30年度～

大きな協働：運転ボランティアの活躍 ボランティアスクール実施

- 1) 高齢者にとっての外出の大切さ
- 2) 公共交通の大切さ
- 3) 京北の現状

京北地域は、車がなければ生活ができない地域 高齢者の足（交通）の確保は、地域にとって大きな課題、いつか自分達も免許返納する時に困る、何とかシステムを作り上げたいと、運転ボラの活動が活発に

交通の事を学ぼう。京北事務所の困りを聞いてほしい。交通の問題を地域の課題に。

### ターニングポイント② 令和元年度より検討開始

京北ボランティア連絡協議会の活動の継続

- ⇒ 京北社会福祉協議会ボランティア専門部への位置づけに再編  
京北社会福祉協議会の活動におけるボランティア活動として整理

ボランティアさん達の声  
ボランティア活動は大切、継続して活動したい。  
しかし、だんだん年齢も重ねてきた、役員は重荷。  
⇒ボランティアの高齢化、新たな担い手の不足  
活動のお世話係の役割の軽減

京北社会福祉協議会  
様々な取り組みにおいて、実働していただけるボランティアと連携したい。との思い。



### ターニングポイント③

サロン送迎を実施するにあたり…勇気を出して、声をかけてみました  
社会福祉法人北桑会 地域の高齢者への介護保険事業実施  
(お世話になっている地域への貢献として)  
大きな協働の始まり…

大切な地域でのつながり  
が1つの形になった

#### 地域の協議体での活動

福祉あんしん京北ネットワーク協議会  
高齢者支援・子ども支援・障がい者支援に  
取り組む

⇒ 17の関係機関が参画する協議体  
始まりは、京都市への合併後  
(平成17年度～)

## ターニングポイント④ 「こんなんあるんや」

令和2年度 農林水産省 中山間地域等直接支払制度

第5期（令和2年度～6年度）集落機能強化加算制度からの委託

⇒ 京都運転ボランティア友の会から情報提供

⇒ 岩手県花巻市 ふるさと高松げんき村熊谷氏に

教えていただき…、該当地域と話し合いへ

昔から京北地域は、農林業の補助をたくさん受けてきた地域、

しかし農林水産省が、何故、今、地域支援???

棚田の田や畑を守るための農業への補助制度 加算は、土地を守る地域や人づくりのために、居場所づくりや外出支援事業に活用できる

令和3年度 7集落と委託契約

令和4年度 加えて5集落と委託契約 総額170万円

## 中山間等地域の加算の具体的な事業内容

- ① 送迎は、右京区社会福祉協議会京北事務所に委託
- ② 居場所への取り組み  
地域で取り組む（京北事務所も支援）  
|地域が取り組みを展開  
新たな居場所の誕生  
地域ぐるみの取り組みになっている…地域の男性の参加
- ③ 地域での高齢者の見守り…地域の皆さんで  
実績には、声掛けや、電話、訪問、雪かき支援  
などが、掲載されていた

## ターニングポイント⑤

1) 生活支援検討会の実施（令和2年度末～）⇒ この会議が大きな役割

民生児童員協議会会長の呼びかけで、高齢者の日常生活のちょっとした困りごとの支援  
についての協議開始

①すでに活動されている地域での支援の歴史や形についての研修や交流  
（おーらい黒田屋・いっぷく家宇津の代表を迎えて）

②買い物の実態調査…

ア) 高齢者への個別の聞き取り                      イ) 地域のスーパーマーケットへの聞き取り

ウ) 移動販売事業者への聞き取り

⇒ 2つの事業者の廃業の話聞き、買い物への危機感が増大 実際には廃業：2事業者  
買い物を何とかしなあかん

コア会議を実施し、買い物支援の仕組みづくり

社会貢献として参画：北桑会・京都市立京北病院

：京北社会福祉協議会 ボランティア専門部

中山間地域等直接支払制度加算についての委託地域からの活用を検討

令和3年度より、モデル事業実施 令和4年度本格実施へ

} コア会議  
にて検討

# いろいろな協働からの今の気づき

「お金がない」という課題から始まったが・・・（お金は、今もない。）

中山間地域等集落協定…農家組合との協議

- ・地域の交通課題についての問題提起
- ・社協京北事務所の現状
- ・目指したいものの共有

課題の解決までいかないが、地域とのつながりが深まり、交通の実態を伝えられている。

・代表だけと話すのではなく、役員の方々に理解を求める

↓

- ・地域でできることはない。との言葉  
しかしこまめに相談報告する中で、理解が広がり、人ごとでなく、いつか自分達も困ることになる。  
と、地域に協力者が生まれた。役員の中にも、当事者の中にも。

☆そして、地域である時驚きの発言が・・・

「地域の中での支え合いや、課題解決に、地域の方々が主体的に取り組む」

…関係者の声「買い物支援」も「サロンの送迎」も、地域と自治会が力を合わせて、

自分達で何かできないか？ 協議をはじめよう ⇒ 共助への方向

こんな、発展もあるんや！と感激

## 今後も課題は満載

### 今後大きな転機

- ・ 過疎債の延長終了  
京都市は過疎地域ではない
- ・ 北部山間地の共通の課題
- ・ 京都市の財政

### 先を思い、不安

- ・ 人（人口減少、高齢化、ボランティアが減る）
  - ・ 物（車の更新等課題多い）
  - ・ お金（事業費、ボランティアさんの費用弁償を充実させたい等）
- 見通しは・・・

高齢者等からいただく「おおきに・・・、おおきに・・・」の言葉、そしてボランティアさん達の「繋がってやれる事を、やれる形で・・・協働しよう。」「ぎちぎちに考えず、ゆったりやろう」に励まされて・私達のしている事は、社会の役に立っていると、ボランティアさんも職員もこの気持ちは大切にしたい　しかし、まだまだこれから・・・  
明るい未来ある話で、終われなくて・・・